

新聞報道記事

1) 神戸新聞 (12月10日)

<http://www.kobe-np.co.jp/kobenews/sougou04/1210ke65570.html>

豊岡市長、国連委で講演 復興に「希望」不可欠

台風23号で被災した豊岡市の中貝宗治市長が九日、東京都千代田区で開かれた国連「水と衛生に関する諮問委員会」で、水害の恐ろしさについて講演した。

委員会は、昨年三月に京都市などで開かれた「第三回世界水フォーラム」を受け、国連のアナン事務総長に対する諮問機関として設立された。橋本龍太郎元首相が議長を務めており、七月のニューヨークでの初会合以来、今回で二回目。

水が引き起こす災害について現場の声を聞くため招かれた中貝市長は、円山川が流れる豊岡市の穏やかな暮らしを、コウノトリの写真などを使って説明。そこに襲った台風23号が、生命の危機や泥とごみとの闘いなどの惨禍をもたらした状況を語った。

一方で、全国から約一万二千人のボランティアが駆け付けたことなども紹介し、「人と人との結びつきこそ、人間を救う。災害への備えとともに、心に働きかける希望が復興には不可欠だ」と話した。

2) 朝日新聞 (12月10日)

<http://mytown.asahi.com/hyogo/news02.asp?kiji=9863>

豊岡市長が国連で「困難から救うのは希望」

9日、東京であった国連の「水と衛生に関する諮問委員会」に中貝宗治・豊岡市長が出席、台風23号災害の基調プレゼンテーションをした。

中貝市長はパワーポイントを使いながら、多くの市民が自宅で孤立、避難所があふれかえったことや泥、ごみとの戦い、倒木や土砂災害などを説明。さらに、全国から駆けつけてくれたボランティアや600本のバラが市に届けられたことなどに触れ、「いつの時代でも人々を困難から救うのは希望だ」と語った。これに会議の進行係が「豊岡の人たちの協働する姿勢、立ち上がろうとする勇氣に感銘を受けた」とコメントした。同市長は「水害の恐ろしさ、豊岡の教訓を各国の関係者に訴えることができ良かった」と話した。

3) 水道産業新聞 (12月13日) 1面

成果を事務総長に提言

国連「水と衛生委」を東京で開く

成果を事務総長に提言

国連「水と衛生委」を東京で開く



国連の「水と衛生に関する諮問委員会」が9日・10日の両日、東京・千代田区

の世界銀行東京開発ラーニングセンターで開かれた。この委員会は今年3月にコ

ンクセンターで開かれた。この委員会は今年3月にコ
フィ・アナン国連事務総長が設置したもので、日本の橋本龍太郎・元総理が議長に指名されている。

今回の会合の成果としては、合意事項が3つ報告された。1つ目はアナン事務総長に対して統合水資源管理に関する提言を行うことで、各国政府が自国の水管理をどう変えていくのかというビジョン行動を定めた計画を2005年までに作成するように求めていく。

2つ目の合意事項として、来年1月に神戸で開かれる国連防災会議で2015年までに洪水災害による世界の死者数を半減することを国連の目標とするよう

に求める緊急アピールを実施する。これは委員会として国際社会に対して発する最初のメッセージとなる。

3点目としては、同委員会が国際レベル、草の根レベルを問わず情報発信を行い、様々な機会を捉え委員自身が積極的な活動をしていくことが報告された。次回会合ではその具体的内容について行動計画としての取りまとめを行うという。

委員会に出席したハトリチオ・チウイーリ国連経済社会局長補は「事務総長は諮問委員会からの提言を非常に重視している。今回の成果は国際社会に大きなインパクトを与えるだろう」と語り、委員会の報告に賛辞を送った。